

れました。

このツアーではシャンボール城、シュノンソー城、クロ・リュセ城の3つをまわりました。その中のクロ・リュセ城を紹介します。



クロ・リュセ城

《クロ・リュセ城》

このお城はレオナルドダヴィンチのお城で彼が晩年を過ごした場所です。もともとは別の人のお城でしたが、財政難のためシャルル8世が買い取り、その後フランソワ1世がレオナルドダヴィンチのために彼の故郷であるイタリア風に建て替えられました。フランソワ1世が生きていた時代はフランスよりもイタリアのほうが技術が発展しており、その進んだ技術を取り入れるためにレオナルドダヴィンチをフランスに招きました。フランソワ1世は彼がホームシックになってイタリアに帰らないようにイタリア風の

お城、家具や食べ物もイタリアのものをわざわざ取り寄せたそうです。その証拠にこのクロ・リュセ城はほかのお城とは違い赤レンガでできています。当時、石灰岩で作られた白い外観のお城がフランスでは人気で見栄を張るために内側は赤レンガで作り周りだけ石灰石で作られたお城もありました。このお城はイタリア風にするためあえて赤レンガのままの外見をしています。

また、ここには有名なモナ・リザも飾られています。私は先日ルーヴル美術館で本物のモナ・リザを見たのでレプリカかと思ったのですが、本物でした。(モナ・リザは世界に5枚あるらしいです)もしモナ・リザを近くでゆっくり見たければルーヴル美術館よりこのモナ・リザをお勧めします。



クロ・リュセ城の
モナ・リザ

【パリで詐欺集団に出会った話】

その日は1人でサント・シャペル教会に向かっていた。サント・シャペル教会まであと100mくらいのところに来た時、紙を持っていろんな人に話しかけている集団がいました。大人の女性6~7人と彼女達の子供を含めた総勢12人程の集団です。そのうちの1人の女性が私に「Bonjour! Do you speak English?(こんにちは! 英語話せますか?)」と話しかけてきました。私は『No.』と歩きながら答えましたが、彼女は「Sign Please!(サインください!)」と続けて話しかけてきました。私は『NO!』と歩きながら答えましたが、彼女は諦めずにしつこく「Sign Please!」と連呼しながらついてきました。すると仲間の女性や子供達が一斉に私を取り囲み、紙を差し出しながら「Sign Please! Sign Please!」とまくし立ててきました。恐怖を感じて絶対止まってはいけないと思い『NO!』と言いながら速度を上げて歩き続けました。最後には肩やカバン、洋服を数人から掴まれましたが、「絶対に渡さない! 止まらない!」という思いで『NO!』と言いながら歩き続けました。50メートル程歩いたところでやっと離れてくれ、何も被害にあうことなくサント・シャペル教会に行くことができました。インターネットで調べてみると、やはり詐欺の集団のようであの人たちが持っていた紙には「私はこの人に〇€払います。」や「私の持ち物をこの人に全部あげます。」など書いてあるようです。フランスに来てこういう体験をしたのは初めてだったので本当にびっくりしました。フランスにはホームレスがたくさんいるという話を前のフランス便りでしたが、パリは特に多い気がします。駅の入出口には大体ホームレスがいてお金を求めてきます。また道にもたくさんいて、夜などは段ボールやテントを開いて歩道で寝ている人もいます。ルーヴル美術館に行った時も地下を通り地上の入りにくるとき、2つあるドアの入りの真横にそれぞれ黒人の男性が立っており、出ていく人を止め「Ticket please.(チケットをください)」と言っていました。一瞬職員の人かと思いましたが服装が普段着だったので怪しいと思い、前の人も渡さなかったので私も渡さずに帰りました。(ルーヴル美術館のチケットは1日中使えるので、それを貰って観光客に売るつもりだと思います。)ルーヴル美術館やエッフェル塔など有名な観光地の近くではよく黒人男性が風呂敷のような布の上に商品を広げてお土産やお水売っています。この人たちも話しかけてきますが、断れば離れてくれました。

私は留学前にサクレクール寺院での強制ミサンガ売りのことをあるテレビ番組で見ました。そのミサンガ売りの人たちは勝手に手首にミサンガの紐を巻きミサンガを編み始めます。そしてミサンガが完成するとお金を要求してくるという手法です。実際にサクレクール寺院に行ったときにはその人たちはいませんでしたが、地面にはたくさんのミサンガの紐が落ちていたのでやはり今も行っているようです。

フランスにはたくさんの魅力的なものがありますが、旅行を目一杯楽しむためにも、スリや詐欺など防犯対策を万全にしておく必要があると今回改めて感じました。

